

①病院名	②H29 病床数	③2025年 の病床数	④再検証対象該当理由
国家公務員共済組合連合会 九段坂病院（千代田区）	257床	270床	B「類似かつ近接」 （整形外科は評価外）

⑤公的資金の投入状況 ＜自治体や国からの繰入金、運営費補助、交付税交付金等（経営補助・損失補てんの資金）を記載＞			
投入状況 （記載） 有or無	無	名称 ※有の場合	

病院の特色について

1 「得意とする」「重点的に取り組んでいる」主な医療の内容

別紙の通り

2 地域の医療機関との連携の状況（例：高度急性期病院との連携、地域の診療所との連携）

高度急性期病院との連携では、東京医科歯科大学附属病院、東京逡信病院、三井記念病院、虎の門病院などと病病連携を行っているほか、東京慈恵会医科大学や日本大学病院とは、脳血管疾患にかかる患者の受け入れを行っている。地域の診療所等との連携については、158の診療所にご登録いただき年間4,000名程度の患者の紹介を受けており、良好な関係を築いている。

3 その他、病院の特徴的な取組

当院と千代田区との合築整備事業を2015年に実施。これは地域包括ケアシステムを具現化すべく、千代田区の高齢者総合サポートセンターの機能の1つである在宅ケア（医療）拠点を当院に設置・運営している。また、在宅療養拠点病院※として、千代田区の地域医療向上のために、地域の医療機関等と連携した在宅医療の支援、救急医療の提供、区民の緊急入院受け入れ体制確保および災害発生時の医療対応等を実施している。

※在宅療養拠点病院とは…千代田区独自の病院型名で、在宅療養を実施する区内の診療所、訪問看護ステーションと連携して、在宅療養患者の緊急入院、検査の実施などによるバックアップや回復期リハビリテーション病床を設置する等、千代田区における在宅療養支援ネットワークの中で具体的な活動をおこなっている。

別紙

1 「得意とする」「重点的に取り組んでいる」主な医療の内容

①当院は整形外科とりわけ脊椎脊髄外科に特化した診療を行っている。2018年整形外科手術数は1,052件であり、病院全手術件数の3分の2を占めている。そのうち脊椎手術数は1,043件で整形外科手術の99%を占めている。年間脊椎手術数1,000件以上の施設は全国でも数施設である。

区中央部医療圏ではMDC分類で、「脊柱管狭窄・脊椎症を含む・腰部」「椎間板変性」「脊柱変形」の3疾患で症例数が1位となっており、「脊柱管狭窄・脊椎症を含む・頸部」でも第3位となっている。

都内には脊椎専門の民間病院もあるが、その多くは腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症の内視鏡手術など単純な手術を行っており、複雑な手術や、合併症の多い高齢者は単科病院という理由で敬遠している。そうした疾患を補って扱う脊椎専門の公的病院は都内では当院と村山病院のみである。当院では他院での手術成績不良例のサルベージも多く、2万例を超える手術経験を元に、悩める脊椎患者の最後の砦としての使命を果たしている。

一般に75歳を過ぎると椎間板の寿命が尽きて脊椎が不安定化することが多く、脊柱変形、狭窄症の罹患が増加する。向後2025年に向けて、脊椎手術の需要はさらに高まることが見込まれ、適切な医療の供給が、介護・医療費の削減に重要である。

②2019年9月現在で、都内における地域包括ケア病棟保有病床数は、5,091床となっている。そのうち、区中央部医療圏においては420床が運営されている。当院は、そのうちの約10%（44床）を維持運営しており、近隣の高度急性期病院と強く連携し、地域医療を支えるために、「急性期～回復期～在宅」の機能を提供し、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。

③2019年9月現在、都内における回復期リハビリテーション病棟保有病床数は、8,050床と地域包括ケア病棟の病床に比べ1.5倍の病床数が運営されている。そのうち、区中央部医療圏においては264床と地域包括ケア病棟に比べると約60%程度の整備に留まっている。これは、地域包括ケア病棟に比べ回復期リハビリテーション病棟の方が、リハビリ施設の充実や人員配置などの要件が厳しく、都心においては特に前者の要件が足かせになっていると推測される。当院においては、当該医療圏の病床数の約16%を保有しており、近隣の急性期病院と緊密に連携を図り、脳卒中連携パスなど地域での回復期機能に貢献している。また心疾患リハビリも将来開始を検討している。